

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530187

研究課題名(和文)ディアスポラ研究の展開：高度人材をめぐる受入促進政策の現状と動向

研究課題名(英文) New Diaspora in the 21st Century? : Rethinking the Policies for High-Skilled Migrants

研究代表者

柄谷 利恵子 (Karatani, Rieko)

関西大学・政策創造学部・教授

研究者番号：70325546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、英国において導入されているポイント・システムが、21世紀のディアスポラである高度人材の動向や、他の形態の移住者に及ぼす社会・経済的影響について考察することが目的だった。現在、先進諸国の多くが、グローバル経済競争に勝ちぬくことを目指して、高度人材の受入れを進めている。その際、政策手段として導入されるのが、ポイント・システムと言われる能力別移民選別受入れ制度である。

研究の結果、高度人材の生活を支える非熟練労働者として、女性家事労働者の受入れが進んでいることが明らかになった。受入国内で高度人材が注目される一方、彼女たちの存在は見えにくく、受入状況の改善が望まれる。

研究成果の概要(英文)： This study focused on the point-based system which the UK government introduced in 2008 and examined the policy implication upon the high-skilled workers whom the government had originally claimed to welcome and attract. In investigating how the system has been implemented since 2008, this study revealed the following three points.

First, unlike the original purpose, the point-based system did not dramatically increase the number of high skilled workers coming to the UK. It instead played a role of reducing the overall number of immigrants and thus did not encourage the inflows of high skilled migrants. Second, although the point-based system did not favour female overseas domestic workers, they continued to come and became indispensable in the sections such as catering and cleaning. Third, as they support the kind of life-style which high skilled workers wish to enjoy, the UK government is urged to introduce measures to alleviate the hardship which those female workers suffer.

研究分野：国際関係論

キーワード：トランスナショナリズム 国際移動 高度人材 ディアスポラ 入国管理政策

1. 研究開始当初の背景

近年、政策立案者の間で、必要な人材を選別し、その能力に応じて国内で処遇して受け入れていくための制度設計が模索されている。その中核を担う能力別選択的移民受入れ政策(いわゆる、ポイント・システム)をめぐる研究では、移住者個人の資格や能力の基準設計や移住者個人の処遇に関心が集中している。しかし政策が対象とする人材が本当に集まっているのか、さらには、他のタイプの人材受入れにどのような影響があるのかといったような、入国管理政策全体におけるポイント・システムの評価はまだ少ない。

本来、入国管理政策とは、入国時の審査及び選別だけでなく、入国後の受入れ体制を含めた一連の流れによって成立している。また入国管理政策の効用と意義を評価するためには、受入国の視点だけでなく、移住者自身の視点も不可欠である。にもかかわらず従来から、受入国の視点は経済学や法学の分野で、移住者の視点は社会学や文化人類学の分野で議論するといったような分業体制が存在していた。加えて政治学の分野では、日本では特に、入国管理政策分野に対する関心が低い。さらに、少ないながらも存在する貴重な先行研究の多くが、国内の政策形成過程に重点をおいているため、各国及び移住者を取り巻く国際環境が見過ごされがちであった。

本研究の対象であり、また各国政府が重点的に受け入れを望んでいる高度人材は、国境を越えて次々と移動を繰り返す、もしくは出身国と受入国を行き来する(潜在性を持った)移住者である。そこで彼ら・彼女らの移住行動に対する政策的影響を分析するために、国際政治・国際関係論の分野から視点を取り入れることを、本研究では目指した。

2. 研究の目的

グローバル経済競争に勝ち残るための高度人材や、少子高齢化社会に対応するための家事・看護・介護労働者といったように、必要な人材を客観的指数に基づき審査・選別して受入れることを目的として導入されるのが、「ポイント・システム」である。この入国管理システムに対する関心が、各国政府の間で近年高まっている。

本研究では、2008年からポイント・システムを導入している英国における高度人材の移住時および移住後の動向に焦点をあてることで、受入国の視点 高度人材は本当にやってきたのか? - および、移住者の視点 移動はどのような社会・文化的変化をもたらしたのか? - の両方から検討し、ポイント・システムの意義及び効用を問うことにした。

本研究の成果は、2012年からポイント・システムを導入している日本において、今後の政策設計・改良に役立てることが可能である。先例に学ぶことで、受入国の利益だけに特化するのではなく、移住労働者の人権や公正な

処遇を考慮した政策を構築し運用していくことが実現される。またその過程で、ポイント・システムと従来の入国管理政策の相違を、受入国及び移住者両方の視点から明らかにしていくことも目的の一つとされた。

3. 研究の方法

本研究では、基盤研究 C (代表)(H21 - H23)「高度技能移民受け入れ政策と家事・看護・介護労働者:ポイント・システムの意義」での成果をふまえ、ポイント・システムの効用と意義を、受入国の入国管理政策全体を視野に入れて問い直すことが目指された。

その際、高度人材を能力・資格を有する「個」として捉えてきた従来の議論に対して、グローバル化時代のディアスポラの一形態として高度人材を再提示することで、国境を越えた繋がりやネットワークの形成から、彼ら・彼女らの動向を分析することが課題だった。

本研究の対象としては、2008年からポイント・システムを導入し、その後も改正を続けている英国を取り上げた。先の基盤研究では、女性移住労働者に重点が置かれていた。それに対し今回の研究においては、高度人材へと分析対象を広げ、ポイント・システムの成果および高度人材の受入れが他の形態の人材の受入れに与える影響を分析した。

具体的な研究方法としては、英国の公文書館や関連する国際機関において文献収集を行った。それに加えて、国内外の専門家との意見交流を毎年行った。その成果は、日本語および英語で発表している。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果:

本研究を通じて有意義な成果を出すためには、本研究の土台となる前回の基盤研究 C (代表)(H21 - H23)「高度技能移民受け入れ政策と家事・看護・介護労働者:ポイント・システムの意義」の成果を発展・拡大させることが不可欠だった。そこで今回は、前回の研究成果を基盤として、ポイント・システムが入国管理政策全般に与える影響、特に、高度人材の受け入れ促進が他のカテゴリーの移住者受け入れに与える影響について、日本語および英語で、合計6本の単著論文を発表した。

本研究の分析成果は、以下の3点にまとめることができる。

まず第1に、人の国境を越える移動の中では、「高度人材」という対象が関心を集めるようになったのは、まだ最近のことである。そこで、人の移動の分野における国際レジームの進展過程を分析するにあたり、新たに注目を集めてきた高度人材という分類の形成および、その受入れ促進政策の意義と影響について検討した。その結果、高度人材とは、その時々々の各国の政治・経済状況にあわせて恣意的に形成される、極めて主観的な分類で

あることが明らかになった。

第2に、高度人材の受入れ促進政策が、女性移住家事労働者の受入れおよび入国後の処遇に与える影響について検討した。この点については、高度人材の受入れと女性移住家事労働者の受入れが密接に関連していること、さらには、高度人材の受入れが促進された結果、その背後で、女性移住家事労働者の受入国内での処遇が厳格化されることがわかった。

第3は、高度人材受入れ促進政策が、英国の入国管理政策全般、さらには近年関心が高まっている英国の国民性(Britishness)議論に与える影響について考察した。現実のポイント・システムは、高度人材の受入れ促進のために運用されていない。実際は、ポイント・システムを通じて、入国希望者を仕分けし、入国後の処遇を管理するための道具として利用されている。そのため、ポイント・システムの導入によって、英国国民を含めた英国国内で居住する者の階層化が進んでいる。またポイント・システムの存在が、その階層を正当化する結果となってしまう。

(2)研究の成果の位置づけとインパクト：

日本でも2012年以降、ポイント・システムが導入され、高度人材の受入れが促進されようとしている。「高度な技術や能力をもつ者を、選抜して選択的に受入れる」という目的自体には、反対論は少ない。しかしなにを基準に「高度人材」と定義するか、ポイント・システムが本当に高度人材受入れ促進のために機能しているかについては、まだ研究がはじまったばかりである。そこで、日本に先んじてポイント・システムを導入した英国の事例を検討することは、今後の日本の入国政策のあり方を考える際に有意義である。

加えて、ポイント・システムにのみ焦点を当てた分析では、入国管理政策が「将来の国民」の定義に影響を与える重要な政策であるという点が見過ごされがちである。そこで本研究では、ポイント・システムが入国管理政策全体の中で果たす役割、さらには、ポイント・システムが国民の定義に与える影響を検討した。その過程で、社会学や経済学における最近の「国際移住研究」の展開をふまえ、この分野における研究蓄積のまだまだ少ない国際政治学・国際関係論の視点を取り入れることが可能になった。結果として、「グローバル化時代のディアスポラ」の一形態である高度人材の受入れに関する政策立案及び政策提言へとつなげていくための一歩となったと考えられる。

最後に、従来から、ディアスポラ研究やノマド研究の分野においては、エスニシティや民族を基盤として形成されるネットワークに焦点が置かれていた。そのため、「個」の能力や資格を重視する高度人材に対する指摘は少なかった。一方、高度人材をめぐる研究では、「個」としての彼ら・彼女らの移住

や処遇に関する研究が大半で、彼ら・彼女らのネットワーク形成や出身国との人的繋がりについてはほとんど見過ごされたままであった。そこで本研究では、ポイント・システムを入国管理政策全体および国民性議論全般の中で位置づけることで、グローバル化時代のディアスポラである高度人材の特徴や、他の移住者集団との違いを問うことを試みた。

今後は、本研究の成果をふまえて、「個」に由来する能力・資格の保持と「個」をこえた「ネットワーク」の軋轢の解明につなげていきたい。「個」として高い評価を受け、ポイント・システム下で移住をおこなう高度人材は、従来のディアスポラと比べて、どのように特徴的なネットワークを展開するか。この点を検討することで、「個」の側面のみを重視されがちな高度人材を、集団として捉え直し、その動向を分析することが可能になるはずである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

栢谷 利恵子、「国籍・入国管理政策と対外政策の交差：英国人性をめぐる議論から考える」『国際政治』、査読有、第173号、2013、141-154。

Rieko Karatani, "Unravelling the Security and Insecurity of Female Overseas Domestic Workers: 'Global Householding' and 'Global De-Householding' Examined", *Afrasian Research Centre, Ryukoku University Phase 2, Working Paper Series Studies on Multicultural Societies*, 査読無、no. 2, 2012, 1-22.

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 4 件)

Rieko Karatani 他、Palgrave, *Multiculturalism and Conflict Reconciliation in the Asia-Pacific: Migration, Language and Politics*, 2014, 137, 162.

栢谷 利恵子 他、現代人文社、『難民・強制移動研究のフロンティア』、2014、60、74。

栢谷 利恵子 他、有斐閣、『コンストラクティヴィズムの国際関係論』、2013、173、195。

栢谷 利恵子 他、法律文化社、『国際関係論入門：思考の作法』、2012、240、253。

[その他]

・研究ノート：

栢谷 利恵子、関西大学マイノリティ研究

センター最終報告書、「国際関係の中のシティズンシップ：移動性からの問いかけ」、2013、311-326。

・市民向け公開講座：

柄谷 利恵子、「家事・看護・介護：女性移住労働者を中心に外国人人材の受入れと活用を問う」、横浜市六角橋教会・公開講座、2015年1月11日、六角橋教会（神奈川県・横浜市）。

6．研究組織

(1)研究代表者

柄谷 利恵子(KARATANI, Rieko)

関西大学・政策創造学部・教授

研究者番号：70325546